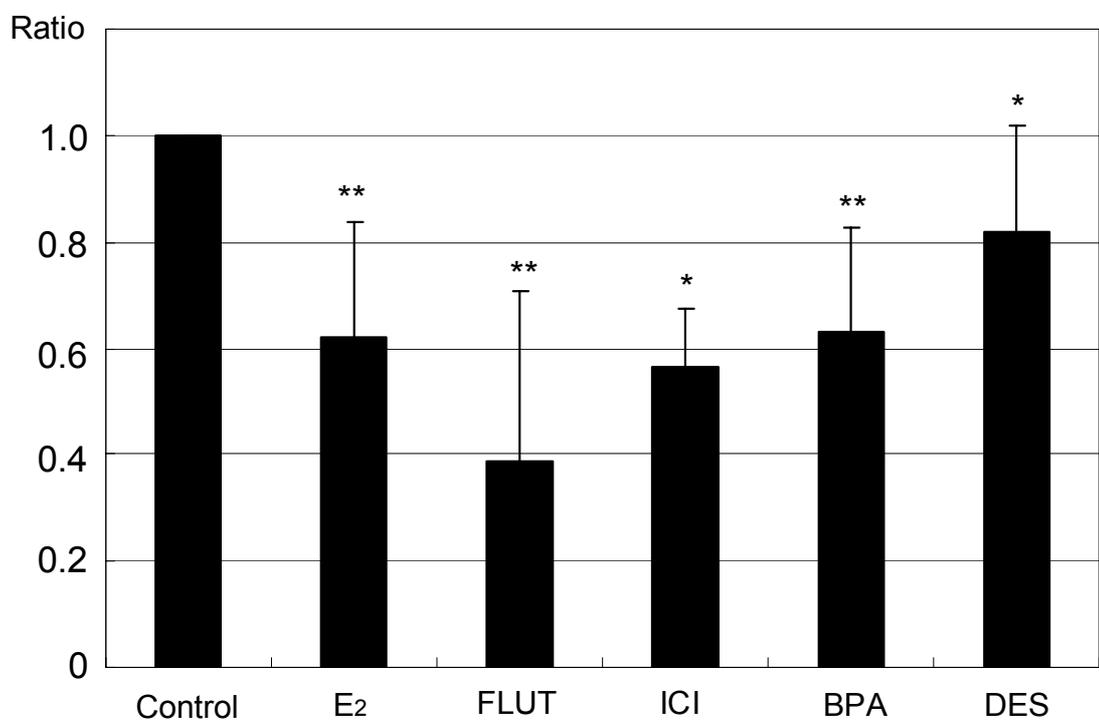


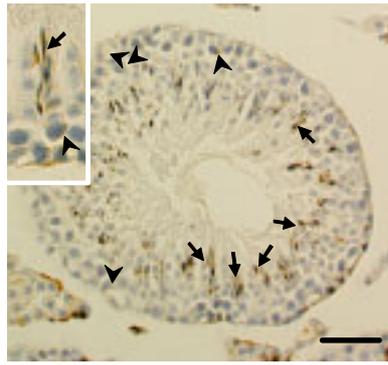
G. 図表



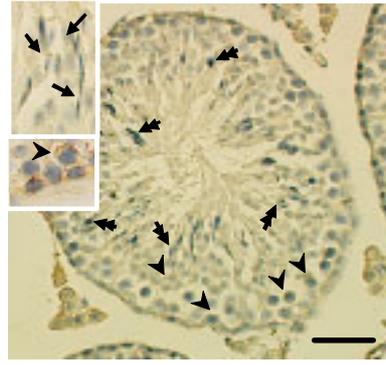
* : $p < 0.05$ 、* * $p < 0.01$

図 1 精巢内コートアクチンタンパク質発現量の比較

E₂、FLUT、ICI、BPA、DESをそれぞれ投与したマウス精巢中のコートアクチンタンパク質量をウエスタンブロット法で定量し、コントロールの値を1として表示した。



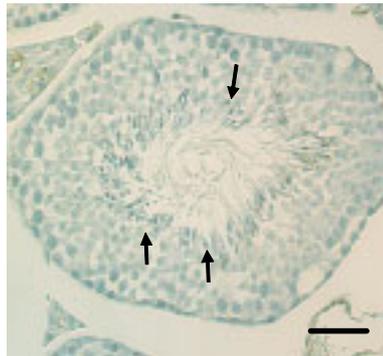
A: 対照群



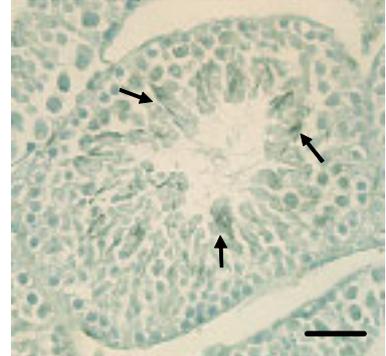
B: FLUT投与



C: E2投与



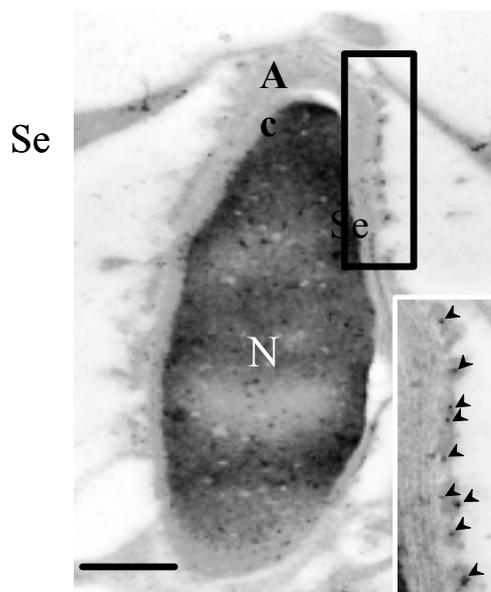
D: BPA投与



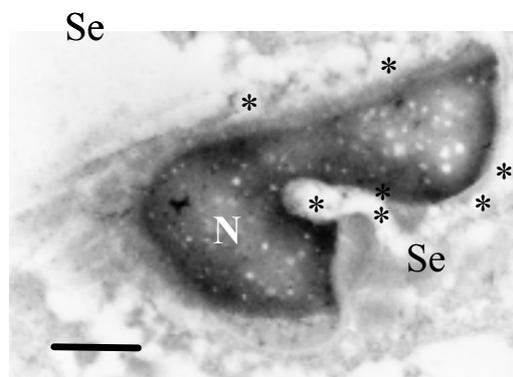
E: DES投与

図 2 精巣内コートアクチンタンパク質発現量の比較

対照群(A)および薬剤投与群 (B: FLUT, C: E₂, D: BPA, E: DES) の精細管を示す。矢印: apical ES、アローヘッド: basal ES、ダブルアロー: 頭部変形精子細胞、Bar: 50 μm。コートアクチンタンパク質の発現部位: 褐色、対比染色: 青色。



A: 対照群



B: FLUT投与

図 3 精巣内コートアクチンタンパク質発現量の比較

対照群 (A) のアローヘッド部分にコートアクチンが存在しているが、FLUT 投与群 (B)の*印部分ではコートアクチンの欠損が見られる。